

(学年) 第2学年、(教科・科目) 芸術科・書道Ⅱ

一斉学習

(単元) 漢字仮名交じりの書(卒業生へのメッセージ)

(本時のねらい)

文字が意志や感情を表現する手段としての存在であること、そして既に学んだ漢字、仮名の書の古典との関わりをふまえ、卒業生へのメッセージを制作することで芸術的な新しい自己表現の手段へと昇華していくことを実感させたい。本単元では、自己を表現する喜びや感動を味わうことを第一に心がけ、生徒の主体性を大切にしながら生徒が意欲的に自らの個性を表現するものとしたい。

本時では、自身の表現について深く考え、表現の幅を広げるため、前回学んだ古典である三色紙(寸松庵色紙・継色紙・升色紙)の、教科書に掲載されていない表現について一人一台端末を活用し、多様な書表現を味わい、自身の作品に積極的に活用しようとする態度を育みたい。

(ICT活用方法)

自身の想いを漢字仮名交じりの書で表現するにあたり、これまでに学んだ古典作品(三色紙)を参考にした表現・構成を考えさせるが、教科書に掲載されていない作品を学習用タブレットで調べさせ、多様な書表現の美を味わわせたい。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 5分	・本時の目標と活動内容を知る。	・本時の目標と活動を説明する。	
展開 37分	・言葉に持つイメージや表現したいことを明確にする。 ・古典(三色紙)の散らしを参考に、作品の構成や表現を工夫する。	・イメージや表現したいことについて深く考え、どのような表現方法が適切かを考えさせる。 ・一人一台端末で、三色紙を検索し、教科書に掲載されていない表現を味わうことで多様な表現を試みさせる。	・一人一台端末で、三色紙を鑑賞する。 ・三色紙の多様な散らし書きを参考に、自身の作品の草稿を練る。
まとめ 8分	・本時のまとめを聞く。 ・「創作ノート」を整理する。	・本時の学習内容をまとめる。 ・自己評価をさせる。	

(授業の様子)



(生徒の反応と課題、改善を要する点)

一人一台端末を使い、必要な情報を調べさせた。教科書に掲載されていない作品の美を構成する要素のひとつである「散らし書き」を味わうことで自身の作品に生かそうとする態度が見られた。今回は、個人への指導・支援になったが、電子黒板が整備されることで、一斉学習も可能になりクラス全体で情報が共有され、さらなる学習効果が期待できると考える。また、Wi-Fi環境が安定することで、授業支援クラウドアプリを活用し生徒相互の作品共有・鑑賞も可能になると考えるので、活用法について研修に努めたい。